

第14回伝統文化大会 ～ 指定課題・解説～ 統一テーマは「生活と希望」

第14回全国書写書道伝統文化大会（全国年賀はがきコンクール、全国学生書き初め展覧会）は令和8年1月20日（火）に締め切り予定です。今年は大阪万博の盛況、ノーベル賞の受賞といったニュースがありました。こうしたことは、日々の生活の積み重ねから生まれたものです。今回はそういった積み重ねから希望を見いだしていこうという気持ちで当大会指定課題を構成しました。出品料等は同大会実施要項にあります。皆さん、奮って応募しましょう。

自由課題（書き初め展のみ）は、学習指導要領に準拠

全国学生書き初め展には自由課題の部があります。自由課題文言は書写書道教科書からとるなど自由ですが、使用する漢字の学年配当等について学習指導要領に準拠していることが求められますのでご注意ください。つまり、その学年ではまだ習っていない漢字は使えません。何という文言を書いているか、出典名を作品の下に貼る出品票に（出典元がある場合は必ず）お書きください。

課題の文言が同じでも用紙の大きさが違えば3点まで応募できますが、審査結果による授賞は再上位の1点だけとなります。

◆使用漢字

学年後半のコンクールなので、該当学年で習う漢字を使っています。令和の令は4年生配当、元旦の旦は中学生で習う常用漢字です。

◆用紙の大きさ等

用紙の大きさ、名前の書き方などは、第14回実施要項の出品料等まとめた出品規定表にあります。ご参照ください。

全国年賀はがきコンクール＜指定課題＞

* 指定用紙は書文協作成応募用紙または郵便はがき（詳細は書文協へ）

◆年少・年中 うま （なまえ）

◆年長
おめでとう
(なまえ)



◆小 1
おめでとう
げんきにあいさつ。
八年正月
小一 (名前)

◆小 2
あけましておめでとう
たくさんの本をよみます。
八年正月
小二 (名前)

◆小 3
明けましておめでとう
上手に泳げるようになりたいです。
八年正月
小三 (名前)



◆小 4
明けまして
おめでとうございます
こん虫や花の名前をたくさん覚えます。
令和八年正月
小四 (氏名)

◆小 5
新年おめでとう
ございます
朝ご飯をしっかり食べて、
学校に行きます。
令和八年正月
小五 (氏名)



◆小 6

明けまして
おめでとうございます
千里の馬になって、中学に向
け精いっぱい走りぬきます。
令和八年正月
小六（氏名）



◆中学（楷書、行書同一）

新年おめでとう
ございます
歴史や公民の教科をよく
学んで、日本のことをしっ
かり勉強します。
令和八年元旦
中一、二、三（氏名）



◆高・大・一般（行書）

新年のお慶びを
申し上げます
今年の夏は、旅に出ようと
思います。いろいろな風土を
知るのが楽しみです。
令和八年元旦
（氏名）

全国学生書き初め展覧会＜指定課題＞

* 指定課題の用紙は、幼年～小2は半紙、小3～中3は八ツ切、高校・大学生は半切です。（他自由課題の用紙等、実施要項を参照）

◆年少・年中 く
 （なまえ）

◆年長 や
 （なまえ）

◆小 1 ひと
 小一（名前）

◆小 2 かめ
 小二（名前）

◆小 3 お正月
 小三（名前）

◆小 4 美しい山
 小四（氏名）

◆小 5 平和な朝
 小五（氏名）

◆小 6 伝統文化
 小六（氏名）



◆中 1（楷書・行書） 親愛の情
 中一（氏名）

◆中 2（行書） 旅立ちの春
 中二（氏名）

◆中 3（行書） 自然の神秘
 中三（氏名）

◆高校

＜漢字＞ 人一能之己百之

＜かな＞ 山里は万歳遅し梅の花

◆大学

＜漢字＞ 高台神構非人力

池鏡泓澄含日暉

＜かな＞ 新しき年の初めの初春の

けふ降る雪のいや重け吉言



課題解説

課題解説は教場の指導者を対象に書いています。用語も成人用の言葉を使っています。生徒さんに説明する時の参考にしてください。コンクール出品を機に、生徒さんと課題を巡る話が交わされることを期待しています。

＜全国年賀はがきコンクール＞

◆毎年呼び方を決めた十二支（じゅうにし）によると、来年 2026 年は午（うま）年です。動物が神様の召集に駆けつけた順番で決まったと言われる十二支の中で、辰は唯一の架空の動物です。なぜ入ったのか、分かっていませんが、なんだかユニークな感じがしますね。十二支の順と呼び方は以下の通りです。

子（ね）、丑（うし）、寅（とら）、
卯（う）、辰（たつ）、巳（み）、
午（うま）、未（ひつじ）、申（さる）、
酉（とり）、戌（いぬ）、亥（い）



◆年長 賀詞

「おめでとう」は賀詞（がし）の一つです。賀詞とは、年賀状に限らずにお正月に使われるお祝いの言葉のことです。「寿」「賀正」「謹賀新年」「あけましておめでとうございます」など実に豊富で、日本語の豊かさを感じさせてくれます。

◆小学1年生～5年生 添え書き

添え書きとは、新年の挨拶（賀詞）の後に続く文章のことです。ここでは、それぞれの学年の成長過程に合わせて、生活により密着した目標となることを題材にあげました。

◆小学6年 千里の馬

「千里の馬」とは、一日で千里（約 400 km）もの距離を走れる優れた馬のことで、「千里の馬は常に有れども伯楽は常にはあらず」という中国唐代の韓愈の言葉から来ています。文字通りでは、一日に千里もの道を駆け抜けることが出来る特別な馬、または伝説上の名馬を指します。比喩的な意味では、優れた才能や素質を持った人物のたとえです。能力を秘めているが、まだ発揮されていない、またはその能力を活かせる機会を待っている人を指します。

＜全国書き初め展覧会＞

◆小学6年 伝統文化

伝統文化とは地域や国で長い歴史を通じて人々に受け継がれてきた、生活様式、習慣、技術、価値観、芸術、行事などの総称です。またこれらのものは、これからも歴史的な存在意義を持ち、継承、伝承されていくべきものです。

◆高校〈漢字〉 人一能之己百之

「人一たびしてこれを能くすれば、己之を百たびす」

他人が一回で出来ることなら、自分は百回やってみる。という意味。努力を重ねれば、必ず目的を達成できるという教えです。『四書』のひとつとして知られている『中庸』に出ています。

◆高校〈かな〉 山里は万歳遅し梅の花

松尾芭蕉が詠んだ句です。都会に比べて辺鄙な山里では新年のお祝いである万歳(新年を祝って家々を訪ねる民族芸能)が来るのが遅く、正月が過ぎ、梅の花が咲き始めるこの頃になってやっと正月気分になったことよ。という意味。
実入りのよい都会を先に巡るため、田舎は後回しになったのでしょう。

◆大学〈漢字〉 高台神構非人力 池鏡泓澄含日暉

「高台は神構にして人力に非ず 池鏡は泓澄として日暉をふくむ」

高台の神々しい造営は人の手によるものではなく、池は鏡のように深く澄み、日の光を包み込んでいる。
空海『性霊集』より。

◆大学〈かな〉 新しき年の初めの初春のけふ降る雪のいや重け吉言

新しい年の初めの初春に、今日降る雪のように、良いことが次々と重なって欲しいという意味。「吉言(よごと)」は、良いことという意味。新年を祝うおめでたい歌で、『万葉集』最後を締めくくる歌です。
大伴家持 『万葉集』より

